

令和7年（2025年）の北海道駒ヶ岳の火山活動

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2025年の発表履歴

2025年中変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）
------------	----------------------------

○2025年の活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1-①～③、図2～13）

山頂に設置した監視カメラでは、昭和4年火口及び明治火口のごく弱い噴気を度々観測しました。昭和4年火口のごく弱い噴気を観測した日数は、2021年頃と比べて明瞭に増加しています。山麓に設置した監視カメラでは、4月までは昭和4年火口からのごく弱い噴気を観測する日がありましたが、その後は観測されませんでした。2024年と比べて噴気活動の状況に特段の変化は認められず、低調な状態です。

8月28日と9月10日に国土交通省北海道開発局、12月5日に北海道の協力により実施した上空からの観測では、昭和4年火口をはじめとする山頂火口原内の各火口の状況に特段の変化は認められませんでした。赤外熱映像装置による観測でも、前回の観測（2024年9月）と比べて、地熱域の状況に特段の変化はありませんでした。

5月28日に山頂火口原で実施した現地調査では、昭和4年火口の噴気の状態や地表面温度分布に前回の観測（2024年10月）と比べて、特段の変化は認められませんでした。また、その他の火口についても状況に特段の変化はありませんでした。

・地震及び微動の発生状況（図1-④～⑥、図14～15）

火山性地震は少なく、地震活動は低調な状態でした。震源は山頂火口原浅部に分布しました。火山性微動は観測されませんでした。

9月23日以降、北海道駒ヶ岳の南東約10kmで地震が増加し、10月26日までに鹿部町宮浜で震度1以上を11回観測しました。このうち9月23日16時37分に発生したマグニチュード2.3の地震及び10月9日17時59分に発生したマグニチュード2.6の地震では、それぞれ最大震度2を観測しました。これらの地震の発生前後で北海道駒ヶ岳の火山活動に特段の変化は認められませんでした。

・地殻変動の状況（図16～18）

GNSS連続観測では、2024年秋頃以降は特段の変化は認められていません。長期的には、山頂火口原付近を挟む基線で断続的にわずかな伸長が認められ、伸長傾向が続いています。

5月27日～30日にかけて行った山頂付近のGNSS繰り返し観測では、2015年頃から見られていた昭和4年火口付近を囲む基線の伸長傾向に鈍化が認められました。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』、『数値地図 25000（行政界・海岸線）』及び『基盤地図情報』を使用しています。

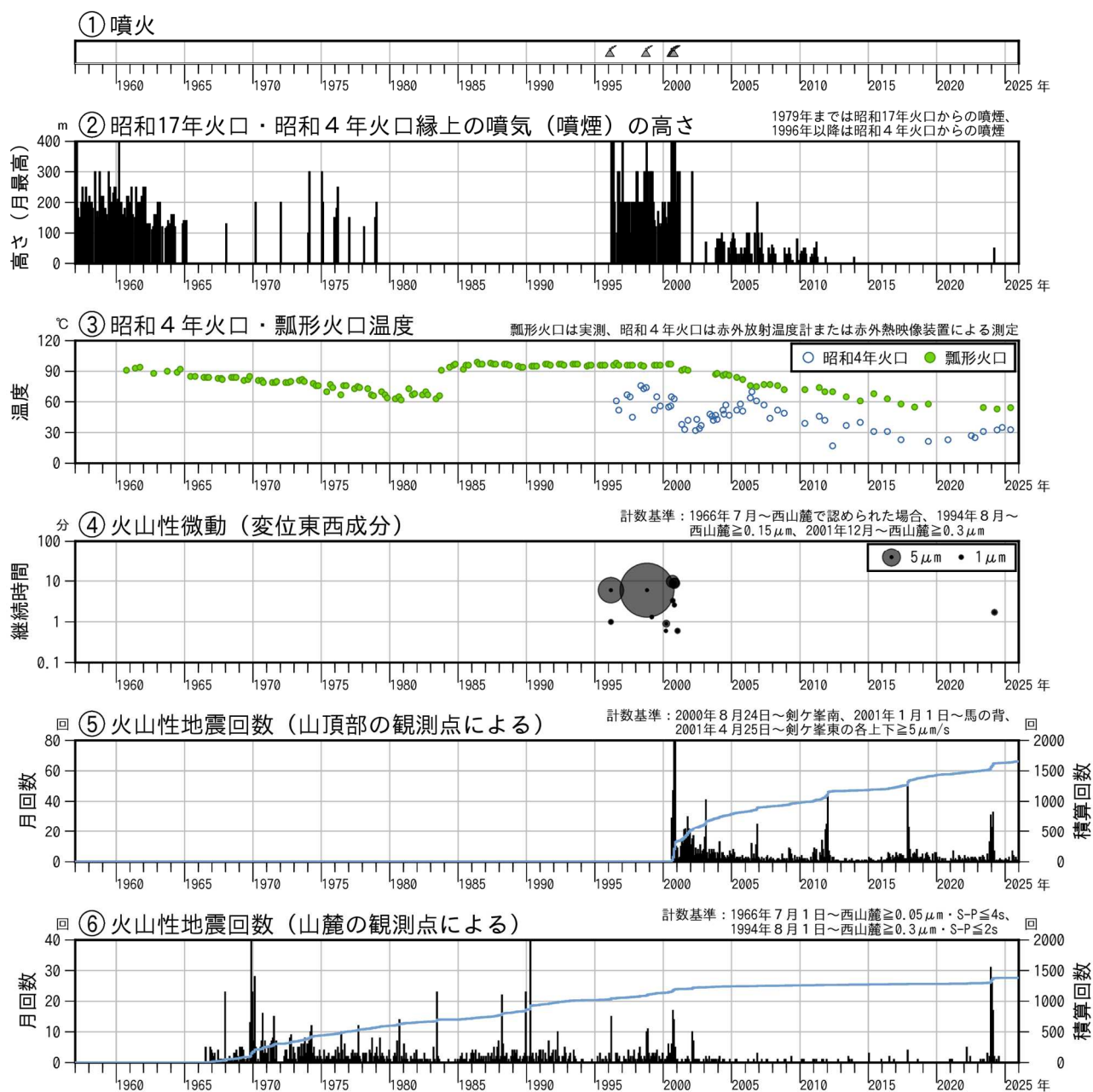


図1 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（1957年1月～2025年12月）

各火口の位置は図5を参照してください。



図2 北海道駒ヶ岳 南西側から見た昭和4年火口付近の状況
(剣ヶ峰監視カメラによる)



図3 北海道駒ヶ岳 南東側から見た山頂火口原の状況
(鹿部公園南東監視カメラによる)

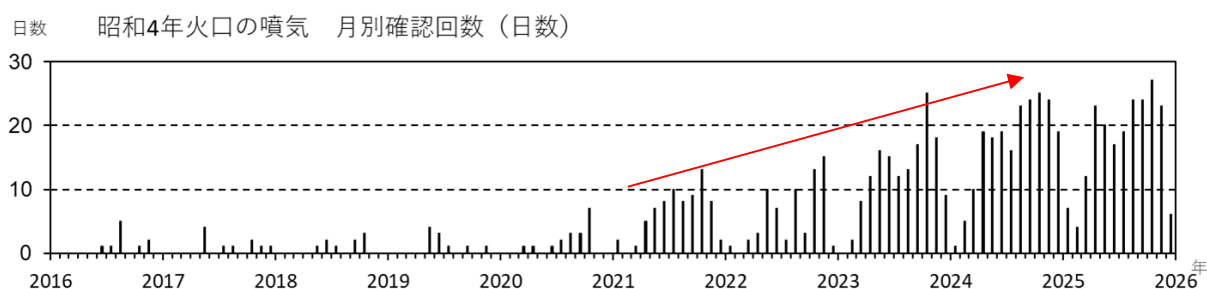


図4 北海道駒ヶ岳 昭和4年火口のごく弱い噴気を観測した日数(2016年1月～2025年12月)
山頂部に設置した剣ヶ峰監視カメラ及び駒ヶ岳山頂(道)監視カメラ(位置は図5、図19参照)による観測結果です。
冬季は雪氷付着のため欠測日が多くなる傾向があります。

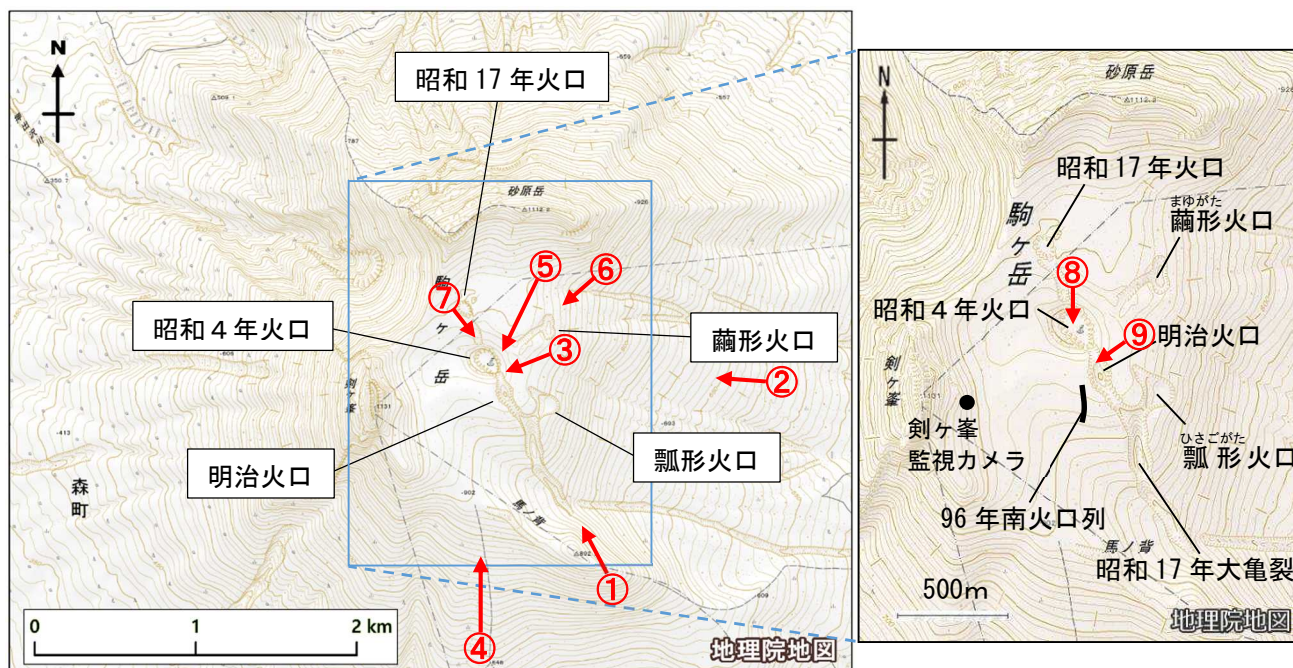


図5 北海道駒ヶ岳 火口周辺図と写真及び赤外熱映像の撮影方向(矢印)

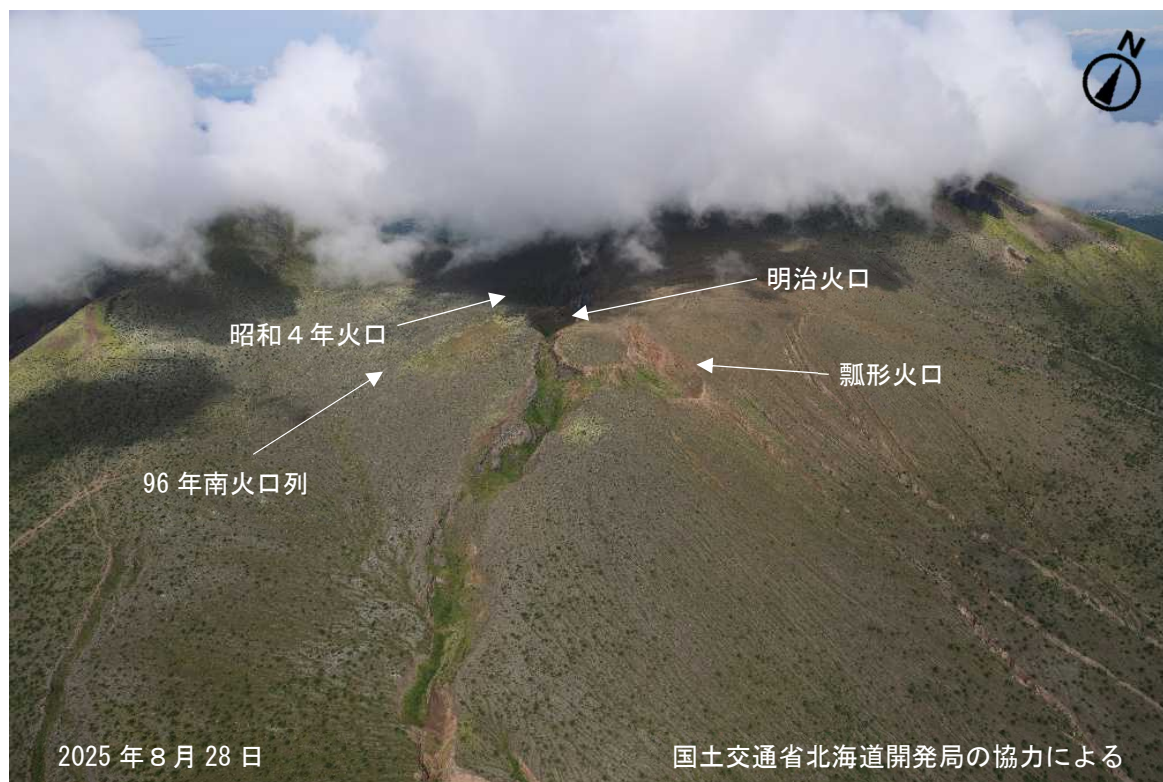


図 6 北海道駒ヶ岳 山頂火口原の状況
南東側上空（図5の①）から撮影



図 7 北海道駒ヶ岳 昭和4年火口及び明治火口の地表面温度分布
上：東側上空（図5の②）から撮影、下：東側上空（図5の③）から撮影

- ・ 明治火口西側火口壁に弱い地熱域（橙円内）を引き続き確認しました。
- ・ 昭和4年火口南側火口壁の地熱域は、観測条件が悪く確認できませんでした。

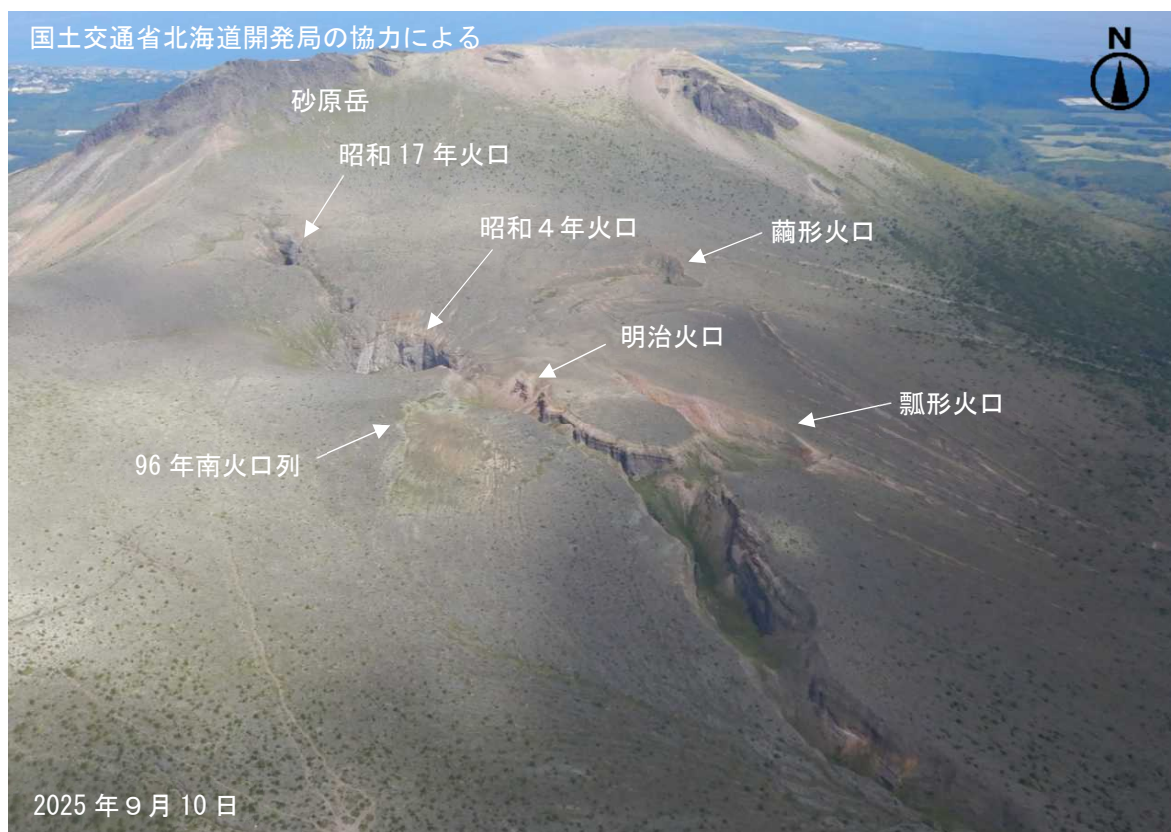


図 8 北海道駒ヶ岳 山頂火口原の状況
南側上空（図 5 の④）から撮影



図 9 北海道駒ヶ岳 昭和 4 年火口及び明治火口の状況
北東側上空（図 5 の⑤）から撮影

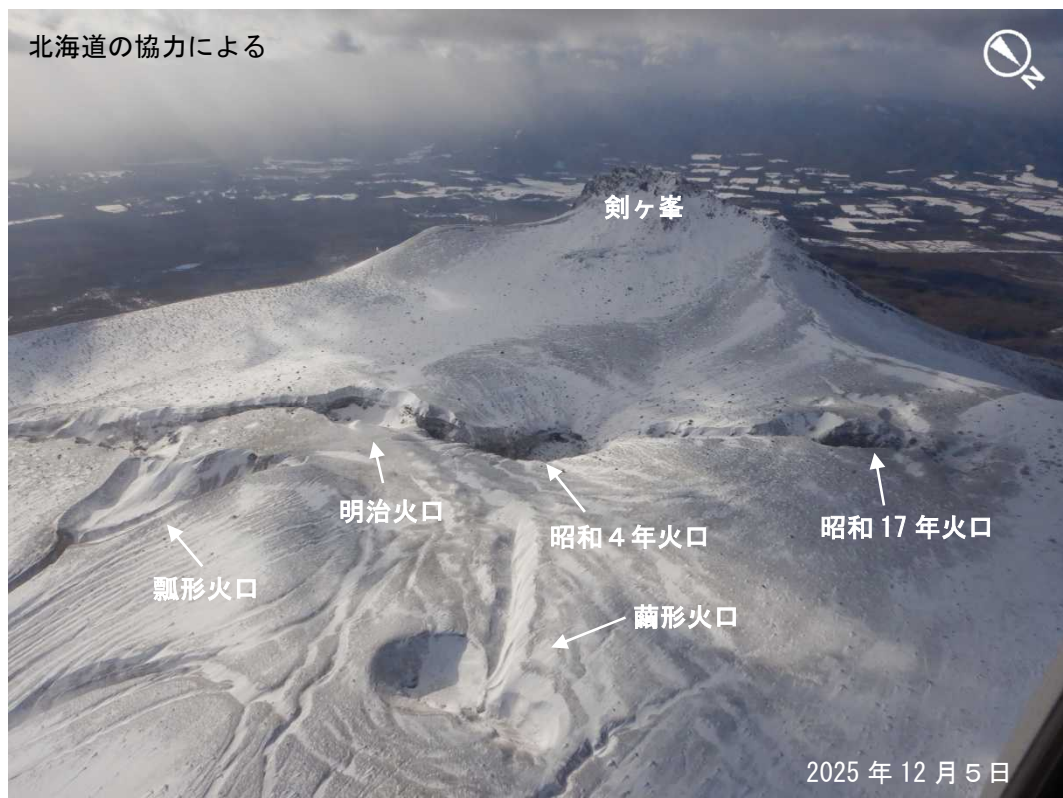


図10 北海道駒ヶ岳 山頂火口原の状況
北東側上空（図5の⑥）から撮影



図11 北海道駒ヶ岳 昭和4年火口及び明治火口の状況
北西側上空（図5の⑦）から撮影

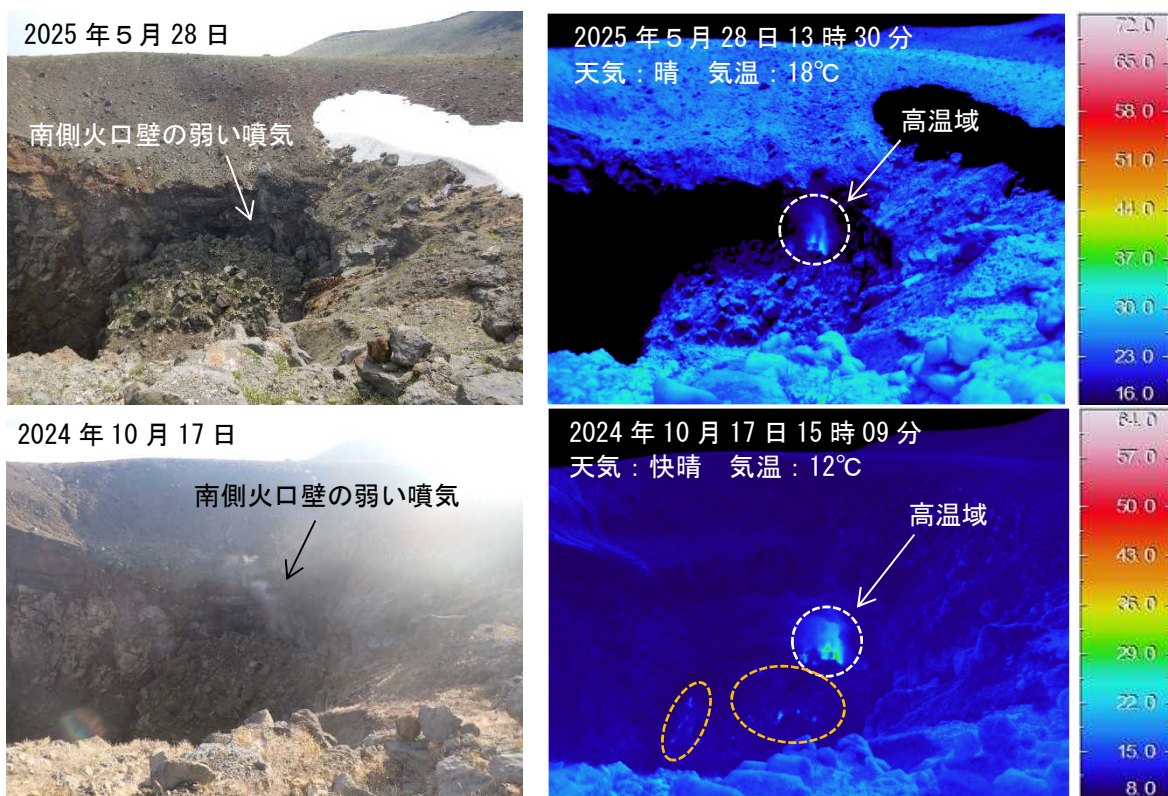


図12 北海道駒ヶ岳 赤外熱映像装置による昭和4年火口の地表面温度分布（撮影方向：図5の⑧）
・前回の観測（2024年10月）と比べて、噴気の状態や地熱域の広がりには特段の変化はありませんでした。前回の観測で局所的に認められたやや温度の高い領域（橙破線内）は、日射の影響で明瞭には確認できませんでした。

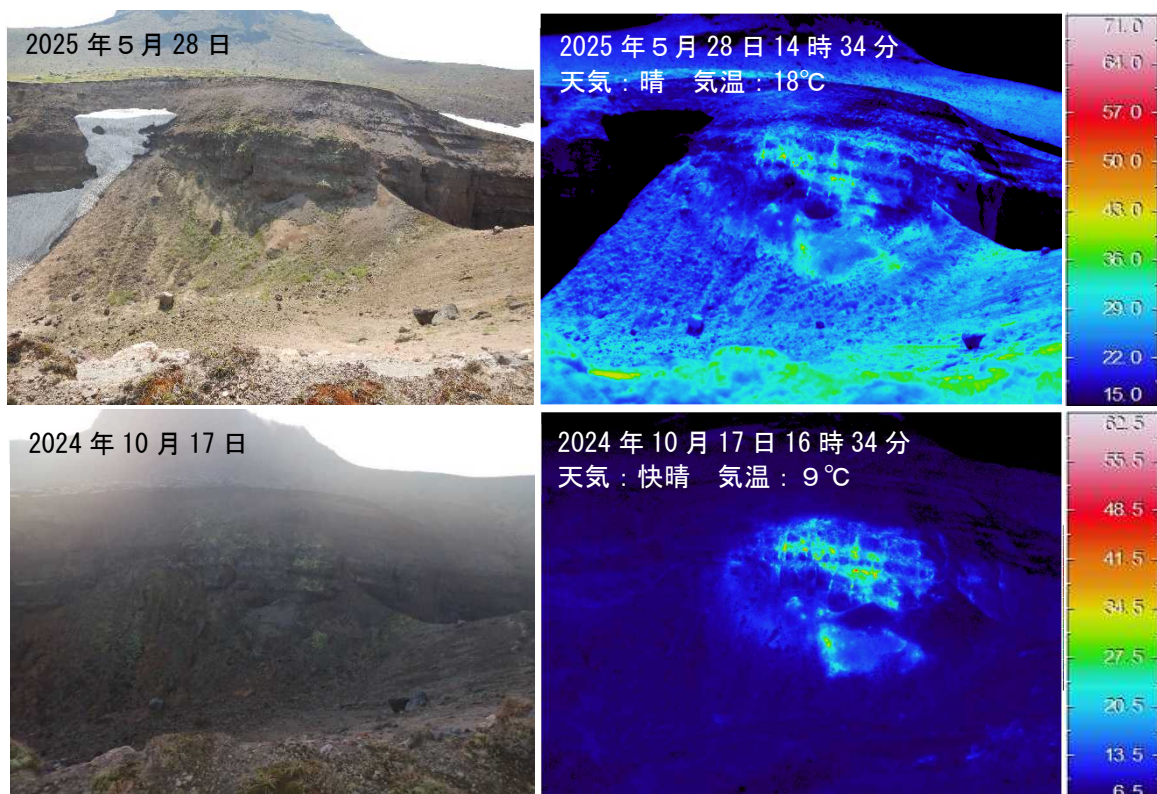


図13 北海道駒ヶ岳 赤外熱映像装置による明治火口の地表面温度分布（撮影方向：図5の⑨）
・前回の観測（2024年10月）と比べて、噴気の状態や地熱域の広がりには特段の変化はありませんでした。

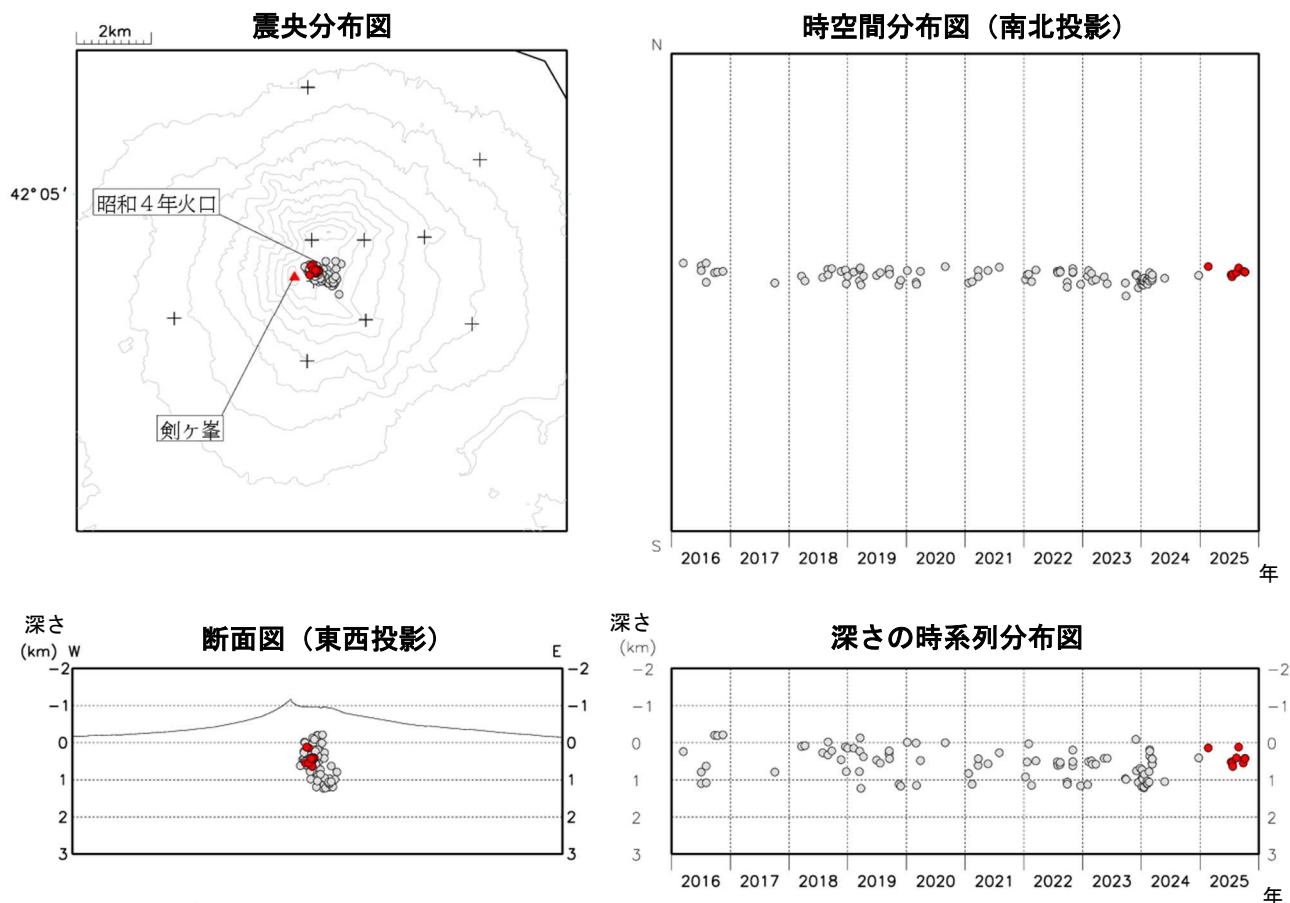


図14 北海道駒ヶ岳 火山性地震の震源分布（2016年1月～2025年12月）

●：2016年1月～2024年12月の震源 ●：2025年の震源 +：地震観測点

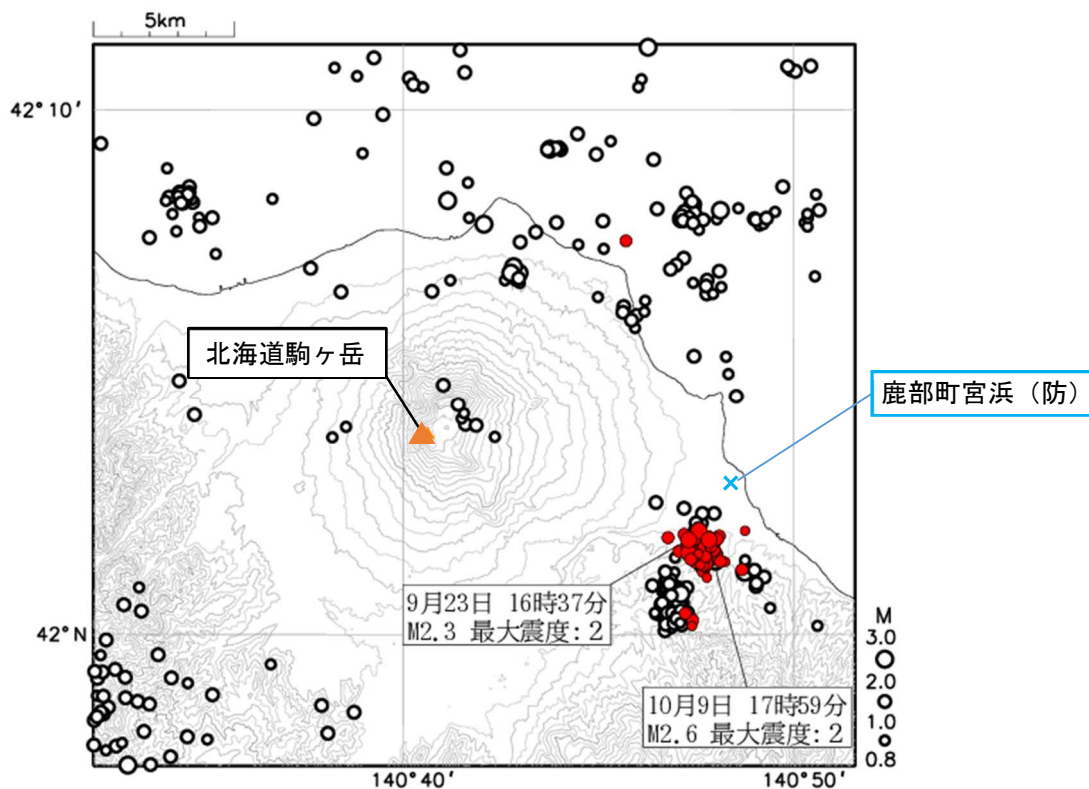


図15 北海道駒ヶ岳 広域地震観測網による山体周辺の地震活動

（1997年10月～2025年12月、マグニチュード(M) ≥ 0.8 、深さ20km以浅）

○：1997年10月～2025年8月の震源 ●：2025年9月～12月の震源 ×：震度観測点
(防)：国立研究開発法人防災科学技術研究所

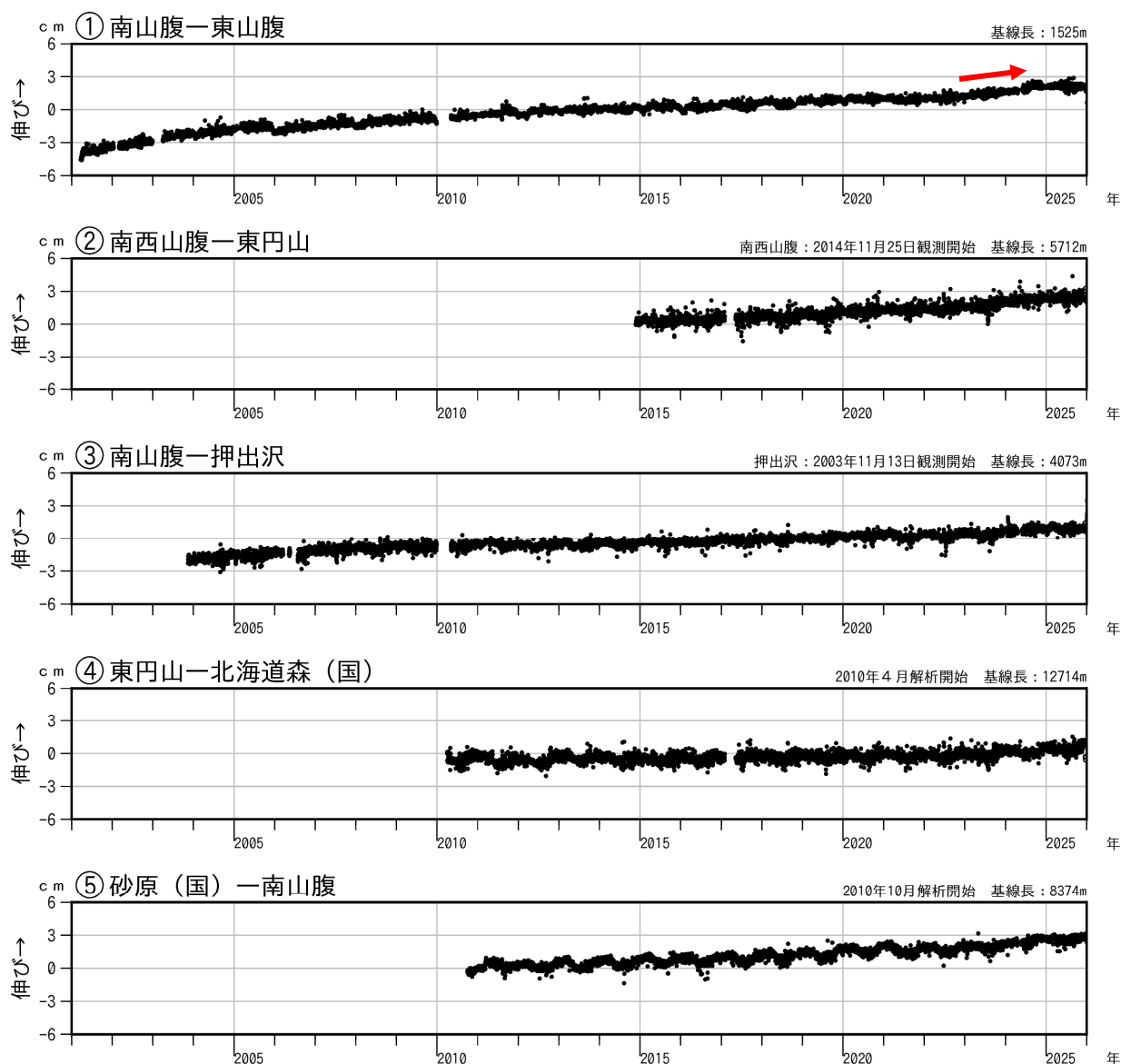


図16 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測による基線長変化（2001年4月～2025年12月）

グラフ①～⑤は図17の観測点配置図の基線①～⑤に対応しています。

グラフの空白部分は欠測を示します。

・2022年夏頃から2024年夏頃にかけて山頂部の一部基線でわずかな伸長が見られました（赤矢印）。

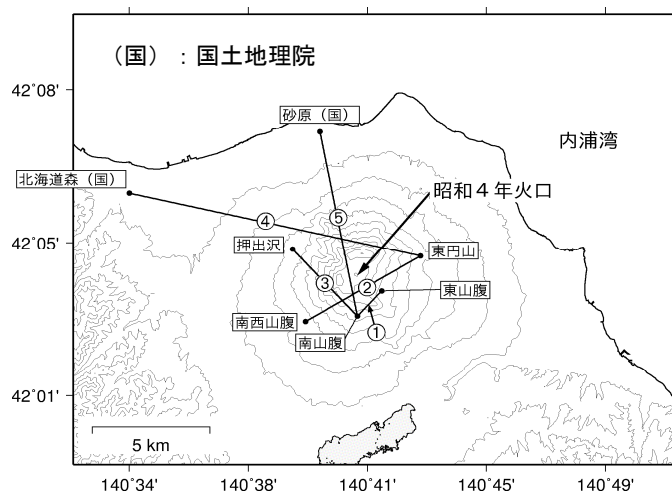


図17 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測の観測点配置図

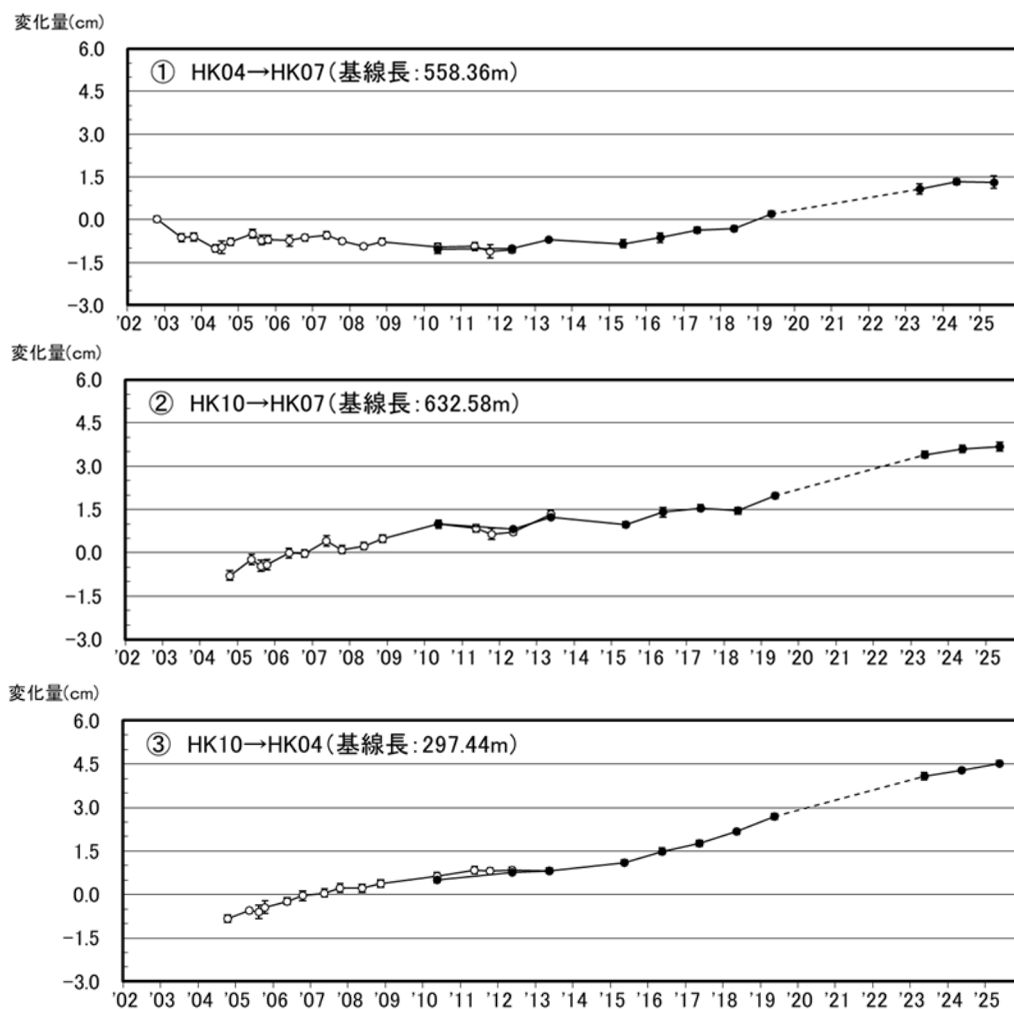


図18 北海道駒ヶ岳 GNSS繰り返し観測による火口付近の基線長変化 (2002年4月～2025年5月) 及び観測点配置図

GNSS基線①～③は観測点配置図の①～③に対応しています。

2013年に解析方法を変更しています。○は従前の解析方法での解析結果、●は新しい解析手法での解析結果を示します (2010年～2012年のデータを再解析した結果を含む)。

2023年の観測は2019年の観測との間隔が開いていることから、破線で描いています。

- ・昭和4年火口付近を囲む基線では、2004年以降断続的に伸びが見られ、2015年頃から伸長傾向が続いていましたが、2024年～2025年にかけてはその傾向がやや鈍化しています。

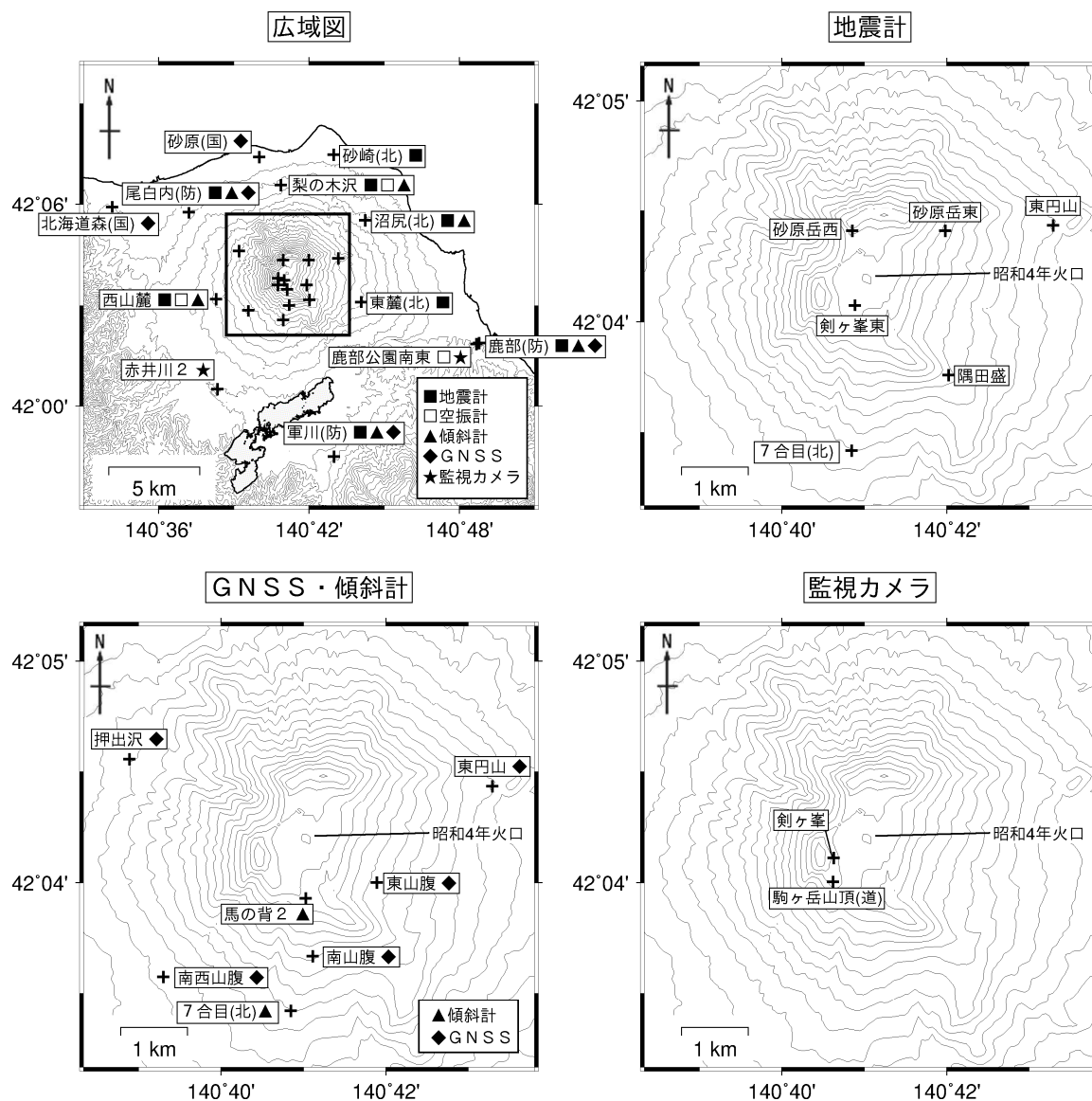


図19 北海道駒ヶ岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の太枠線で囲まれた領域を拡大したものです。+印は観測点の位置を示します。気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国) : 国土地理院 (北) : 北海道大学 (道) : 北海道
(防) : 国立研究開発法人防災科学技術研究所

表 1 北海道駒ヶ岳 観測点一覧（気象庁設置分、緯度・経度は世界測地系）
記号は図19に対応しています。

記号	測器種類	地点名	位置				観測開始日	備考
			北緯(度分)	東経(度分)	標高(m)	設置高(m)		
■	地震計	西山麓	42 03.19	140 38.29	265	-1	1966 年 7 月 1 日	
		剣ヶ峯東	42 03.74	140 41.00	922	-1	2001 年 4 月 25 日	
		砂原岳西	42 04.34	140 40.97	1037	-1	2002 年 9 月 19 日	
		隅田盛	42 03.16	140 42.03	672	-1	2002 年 11 月 15 日	
		東円山	42 04.38	140 43.16	443	-1	2002 年 11 月 22 日	
		梨の木沢	42 06.55	140 40.89	122	-100	2010 年 9 月 1 日	
		砂原岳東	42 04.34	140 41.98	780	-1	2016 年 12 月 1 日	広帯域地震計
□	空振計	西山麓	42 03.19	140 38.29	265	3	2000 年 12 月 2 日	
		鹿部公園南東	42 01.85	140 48.81	49	3	2000 年 11 月 22 日	
		梨の木沢	42 06.55	140 40.89	122	2	2010 年 9 月 1 日	
★	監視カメラ	鹿部公園南東	42 01.85	140 48.81	49	13	2001 年 2 月 1 日	
		赤井川 2	42 00.83	140 38.56	165	14	2015 年 12 月 18 日	
		剣ヶ峯	42 03.80	140 40.76	997	3	2016 年 12 月 1 日	可視及び熱映像
◆	GNSS	押出沢	42 04.57	140 39.17	350	3	2003 年 11 月 13 日	
		東山腹	42 03.57	140 41.92	680	3	2001 年 3 月 23 日	
		東円山	42 04.41	140 43.12	464	3	2004 年 11 月 10 日	
		南山腹	42 02.96	140 41.17	649	3	2001 年 3 月 23 日	
		南西山腹	42 02.83	140 39.57	370	4	2014 年 11 月 25 日	
▲	傾斜計	西山麓	42 03.19	140 38.29	265	-30	2000 年 12 月 2 日	
		梨の木沢	42 06.55	140 40.89	122	-100	2011 年 4 月 1 日	
		馬の背 2	42 03.47	140 41.13	893	-15	2016 年 12 月 1 日	